石川県津幡町　資料提供

令和8年10月30日
総務部総務課
担当：古瀬、有沢
☎076-288-2120

津幡町名誉町民称号贈呈式の開催について

1. 概要・目的など

本町住民又は本町に縁故の深い者で教育、文化、産業、経済、その他広く社会公益上に偉大な貢献をなし、その功績が極めて顕著な方に津幡町名誉町民の称号を贈るため、贈呈式を開催します。

2. 開催日時・日程

令和8年11月3日（火・祝）　午前9時30分　開会

3. 場所

津幡町文化会館シグナス　ホール
（河北郡津幡町北中条3丁目1番地）

4. 出席者

矢田　富郎　氏　（津幡町名誉町民、前津幡町長・元石川県議会議員）

5. その他（注意事項など）

引き続いて、令和8年度津幡町表彰・津幡町教育委員会表彰を行います。
閉会は、11時頃を予定しています。
津幡町名誉町民の称号を受けられるのは、矢田富郎氏が3人目です。
矢田富郎氏の功績は別紙のとおりです。

津幡町名誉町民（第３号）



矢田　富郎（庄）

氏は、昭和５８年に石川県議会議員に初当選以来、６期２２年余にわたり、県勢の発展と地方自治の振興に尽力された。この間、予算特別委員会や常任委員会の各委員長を歴任し、平成５年に県議会副議長、平成１４年には県議会議長に就任するなど、卓越した識見と指導力を遺憾なく発揮された。特に能登半島の振興に情熱を傾け、能登総合開発促進協議会会長等として道路整備や医療等の水準向上に注力されるとともに、七尾線の電化や北陸新幹線の建設促進に向けて関係機関への積極的な働きかけをされた。また、新県庁舎建設を議論する県庁舎基本構想特別委員会の初代委員長として、県内全域への交通利便性を重視し、さらに環日本海中枢都市としての将来の県都発展を見据え鞍月地区への移転を方向づけるなど、本県産業文化の発展に寄与された功績は誠に顕著である。

平成２２年に津幡町長に就任以来、４期１６年にわたり、少子高齢化の進行や自然災害の頻発する時期にあって、持続可能な行政基盤の確立に尽力された。防災体制の強化に注力され、地区防災センターの設置や安全性の高い新庁舎の建設を主導された。令和５年７月豪雨や令和６年能登半島地震の際は陣頭指揮を執り、住民に寄り添った生活再建を推進されるとともに、デジタル技術による情報発信の導入など災害に強いまちづくりの礎を築かれた。さらに、あがた公園やリサイクル拠点などの整備、地域資源を活かした交流拠点の建設、福祉教育プラザの開設や子ども医療費無償化の実現、小中学校普通教室へのエアコン導入やスポーツ施設の充実など、生活環境や福祉、教育の向上に尽くされた功績は誠に多大である。

また、石川県町長会会長や全国町村会会長代行の要職を歴任し、被災自治体の先頭に立って国への緊急要望をされるなど、地方自治の振興発展と強靭な地域社会の構築に尽くされ、地域振興に貢献されてきた。